



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和6年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 12
R7. 2. 28

雨水のころ 総合的な学習の時間について

「雨水」は二十四節気の一つです。今年は「節分」が2月2日であったことから興味をもって調べた人もいないでしょうか。太陽の動きをもとに1年を4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けて24に区切ったもので二十四節気といいます。節分を過ぎると「立春」で、「暦の上では春」です。2月18日からは「雨水」とされ、雪が雨に変わり、雪や氷が解けて水になるころを表します。「雨水」には農耕の準備をはじめ、ひな人形を飾るとよいといわれます。3月5日の「啓蟄（けいちつ）」までの間は、「雨水のころ」という時候の挨拶を使います。「啓蟄」は、虫や小動物が土の中から出てくるころを指す言葉です。「春分」に向かって自然が変化していく様子がよく表現されていると思います。人々の暮らしが四季と結びついていること、それを表す言葉を今に伝えているということに、感性や文化の豊かさを感じます。

2月・3月には、今年度の学習をまとめる活動、発表する活動が多くなります。参観日には、学習を子どもたちが進める姿やまとめたことを発表する姿を見ていただけたことと思います。

明世小学校では、総合的な学習の時間に「ふるさと瑞浪」について学びます。3年生は「瑞浪市の自慢」として、化石、焼き物、地歌舞伎等について調べます。4年生は、「健康な暮らしと福祉」について、高齢者体験や福祉施設見学、医師の話等に加えてインターネットを使って調べ健康づくりについて発表します。5年生は、「明世の環境」として、ホタルの成長や環境について学習し、よりよい環境づくりについて考えます。6年生は、「地域の自然や歴史」で、戸狩城跡や古墳を見学、修学旅行の京都・奈良とも関連付けてまとめます。6年生の最後には、4年間の総合的な学習のまとめとして、自分が興味や課題意識をもっていることについて発表・提案をします。このように、総合的な学習の時間には、調べる力、まとめて発表する力、課題を解決していく力等を育てています。



自分が住む地域のこと、瑞浪・岐阜・日本を知ることが、これからの社会生活に必要なことだと考えます。海外の人にあつたとき、お互いを理解し合うために、食べ物、服装や住居のこと、歌や踊り、お祭りや特産物の話をしたいと思います。日本の着物や浴衣、寿司や納豆、短歌や書、伝統的な歌や歌舞伎等、文化について話す機会があると思います。国内でも、瑞浪を紹介する場合には、パレオパラドキシアや古墳、旧街道と宿場、織田や明智といった武将ともかわりがある城跡、美濃焼の作り方や歴史、五平餅やからすみ、自然環境等を知っている方が相手と豊かな会話ができます。「日中不再戦の碑」についても学んでおくことで、アジアの国々と日本がどのような関係であつたかに配慮しながら、会話を進めることができます。

どれも、インターネットだけでは学べないことです。地域の人から話を聞き、直接歩いて見学することで感動が味わえ、地域とそこに住む自分を誇りに思うことができます。この誇りを胸に、自ら考えて行動し、周りの人と支え合い、よりよい地域・未来を創造するために、新たな提案や課題解決ができるたくましい社会人に育っていくことを願っています。